



さくら 2005 夏

発行
社会福祉法人 東桜会
第 7 号
〒420-0962
静岡市葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

思いのままに

麻機園 元寮母 秋山三千代

昭和63年4月1日。静岡まつりのお囃子を遠く聞きながら、社会福祉法人東桜会 麻機園は誕生致しました。あれから18年目の春も過ぎ、葉ざくらの美しい季節は巡って参りました。

福祉とか、高齢化社会とか、まだまだ耳に馴染まなかった当時のことです。

主人(前理事長)から「特養(特別養護老人ホーム)をやってみたい」と聞かされたのは、それより2、3年前のことでした。農業一途に、お茶とみかんと養鶏のことしか知らない井の中の蛙の様な人が、なんで又そんなに大それた事を、と驚きました。

主人はもともとお年寄りが好きな人でした。そしてお年寄りからも好かれる人でした。一人暮らしのお年寄りと何年も同居し、家族同様に朝昼晩の食事と一緒にしました。寒い冬の夜、お年寄りを病院に連れて行ったこともあります。懇意にしている先生に夜の診察をお願いし、毛布を頭からすっぽりかぶった病人と一緒に、私も自動車の後部座席でうずくまるように付き添いました。主人が一晩中家族の代わりに看病したこともありました。私も、近所のお年寄りにおにぎりを作ったり、味噌汁や玉子焼きを持って行き食べてもらいました。時には寝間着を持って行ったり、おむつの交換もしました。「話しに来てほしい」と呼びに来る人があれば、忙しい暇をさいてとんで行き、話し相手、相談相手になり、なかなか家に戻れないこともありました。まだまだ沢山いろいろなことがありました。ボランティアという言葉が聞かなかった頃の、本当のボランティアでした。この様な事の積み重ねがあって考えた末のことだったと思います。「きっと家にはこうした運命のような家系が備わっているに違いない。大変だけれどやりがいのある仕事だ。自分の力で少しでも喜んでもらえる人がいれば幸せだ。人間ひとりでは生きて行けないから・・・」と決心したようでした。

こうして国・県・市をはじめ、関係者皆々様の多大な御指導、御支援の賜で、念願の『社会福祉法人東桜会 麻機園』は誕生したのです。あの大変だったバブル時代の苦汁を味わった一大事業でした。

開園当初は少ない職員が一丸となって「家庭的で暖かな介護を」と一生懸命でした。60歳を過ぎ、健康だけは自信のあった私も、若い寮母さんと一緒に働かせてもらいました。食事介助、入浴介助、おむつ交換、夜勤・・・体調を壊して休んだ事もなく、14年余り、寮母の一員として働けた事、健康だった事を、今つくづく有り難かったと思います。苦勞と困難の連続を乗り越えて、あれから17年の歳月は過ぎ、今日に至りました。入所の方々から「若い寮母さんも元気があっていいけど、やっぱり同じ時代を、同じ苦勞をして来た人とは話があっていいですね」と言われたり、戦争中の苦勞話に花が咲いて、帰る時間を忘れて話し合った事も今は懐かしい思い出です。

麻機園を、お年寄りを、こよなく愛し続けた主人も、亡くなってもう一年余り経ちました。大勢の皆様を支えられ、ここまで来れた事をきっと感謝していることと思います。そして「これから先もどうぞよろしく御協力をお願いします」と天国からお願いしているに違いありません。私はそう信じています。

主人が生前、自分がこうして生きてこられた証にとケアハウス桜花の前庭に「出迎え地蔵様」を建立しました。東桜会に御縁のある方々を心よりお出迎えできるようにという思いが込められています。また幼い頃の思い出を今一度と、愛らしい「わらべ地蔵」を処々に配し、心安らぐホームであってほしいと願いました。同じ家族として寝食を共にした入所の方々も大勢お見送りしました。その方々の御冥福をもお祈りしたく、同じ町内の東林寺様に安置をお願いして、観音様の巨像も建立しました。その温顔は、南の空を、望みを、東桜会を見守っておられます。



わらべ地蔵

80歳を目の前にして今私に出来ること・・・それは、麻機園とケアハウス桜花が入所者に愛され、地域に愛される施設として発展する様、ひたすら祈念することのみです。そして御来園の皆様が、一日一日を幸せで暮らしていただきたいと願います。残された人生を、健康が許す限り、ささやかなお手伝いを惜しまず生きてゆきたいと思っている今日この頃です。

夏祭りにお越し下さい

- 麻機園 生活相談員 磯貝つかさ -

今年の夏祭りは、昼の部、夜の部の2部制です。

昼の部では、カラオケ、職員による歌謡ショーや恒例の麻機太鼓、射的などのゲーム、模擬店、昔なつかしいお菓子を移動屋台にて販売します。その中でも、私が愛情込めて焼く“夫婦たこ焼き”には、是非お立ち下さい。

夜の部では、昨年も大好評の手筒花火を、今年も“長尾川を愛する会”の皆様にお願ひします。

利用者のご家族の皆様楽しい時間を過ごし、夏の思い出を作っていたきたい。そのために職員一同準備を進めている最中です。今年も夏祭りにお越し下さい。心よりお持ちしております。

昼の部 ~ お祭り ~

日時 8月7日(日)

午後2時30分~4時30分

雨天の場合は麻機園の園内で行います。

イベント

カラオケ&歌謡ショー 麻機太鼓 など

ゲーム

射的 モグラたたき 金魚すくい など

模擬店

かき氷 たこ焼き 綿菓子 焼きそば 移動屋台 など

夜の部 ~ 手筒花火 ~

日時 8月7日(日)

午後7時20分~8時00分

小雨決行!
大雨の場合は8/8月
に行きます。

中筒 20本

小筒 40本

長尾川を愛する会



手筒花火

思い込み?

- ケアハウス桜花 生活相談員 市川文彦 -

私は大学で経済学を専攻していた。そのため「どうして老人ホームに就職したの?」と聞かれることがある。福祉に興味を持ったきっかけは、ある施設に見学に行った時のこと。初めての福祉の現場は、今までに経験したことのない世界だった。その後福祉についてもっと知りたいと思い、いくつかの施設にボランティアに行ったりした。もともと人と関わる仕事がしたいと思っていたこともあり、「自分にはこの仕事が向いている!」「この仕事しかない!」と半分思い込みにも近い、しかし強い決意だった。

麻機園で約4年介護職員として働き、ケアハウス桜花の相談員になって4ヶ月が経つ。最初は利用者の名前を覚えることで手一杯という感じだったが、最近になってやっと少しは地に足がついてきたかと思う。みなさんから相談されることも増えてきた。“少しは信頼されるようになったのだろうか?”これは思い込みではないことを祈っている・・・。

介護職と相談員、仕事の内容は違うが、利用者に対する思いは変わらない。大切なことは信頼関係だと思う。相談員としての知識も経験もまだまだ浅いが、利用者から認められるよう努力していきたい。



段ボールで作ったサックス

麻機園で働いて、あつ!と言つ間に9年が経ちました。思い返せば「福祉」とは無縁、建築設備会社に就職し、現場監督をしていました。その後、広告代理店で新聞広告やチラシのデザインの作成に夜遅くまで机にかじりつく日々・・・。そんな生活に疑問を抱き、人と接したい!「人を相手に仕事をしたい!」と思うようになったのです。

その頃「福祉」という言葉が気になっていました。私はもともとお婆ちゃん子である時お婆ちゃんと話している「福祉の仕事もいいんじゃない?」と言われ、その一言が決定的に、「それだ!」と資料を集め、社協に通い、福祉ナイトスクールに参加し、ようやく麻機園にたどり着いたのです。そして今では、季節ごとの様々な行事の道具係は私の大事な仕事になりました。これには異常なほど熱が入っています。お正月の神社や鳥居、さい銭箱、おみくじ箱から始まり、秋祭りの神輿、クリスマスケーキ、音楽祭の為にトランペットやサクソフーン等々・・・全て段ボールで作ります。外に出る機会が少ないみなさんに、園内でも楽しんでいただけるように、今では夜自宅に帰ってからも段ボールにかじりつく日々になつてしまいました。

今の生活は忙しいけど充実しています。上司、先輩、同僚、そして利用者の皆さんから色々な事を教えられ、助けられて楽しく仕事をしています。これからもみなさんが穏やかで、安心して暮らしていただけるためのお手伝いが出来ればと思っています。

園の下の力持ち

麻機園 寮母 丸山賀久